

ぐりふあん letter



おひさま発電所 1 号機

法然院森のセンター

index

- ◆ 2001年からのおひさまプロジェクト ・・・ 2
- ◆ コメ不足と気候変動と自然農とわたし ・・・ 3
- ◆ きょうとグリーンファンド設立25周年に寄せて
2025年 総会報告 ・・・ 4
- ◆ 太陽光パネルリサイクル工場を見学してきました！！ ・・・ 5
- ◆ 2025年度 環境学習 ・・・ 6
- ◆ 会員ページ
編集後記 ・・・ 7

2001年からのおひさまプロジェクト

きょうとグリーンファンドが活動を始めた 2000 年頃の京都の気候は、「いつもと同じ」でした。多少の変化はあるものの、同じ頃に桜は咲き、しとしとと降る雨が続く梅雨、明けると京都特有の蒸し暑い夏、とはいうものの送り火の頃には秋の気配も感じられ、紅葉は 12 月には「もう終わりだね」・・・。「いつもと同じ」季節の移り変わりだったのです、たった 25 年前は。

実感としての「気候変動」よりも、1986 年に起きたチェルノブイリ原発事故の衝撃から、自然エネルギーを増やすことが、原発をやめることにつながる、という思いが強かったですね。そして、原発に対して「反対」よりも「提案というより実証」。「原発よりも自然エネルギーを」と多くの人が意思表示できる仕組みをつくりたい、と賛同の呼びかけを始めました。呼び掛け文には「地球レベルの環境問題が深刻さを増すばかりの今、多くのエネルギーを使う自分たちの社会と暮らしを見直し、物質的な豊かさを追及するのではない『新しい価値観・豊かさ』をつくる時なのではないか、自然エネルギーの利用はその手立てのひとつではないか・・・」とあります。ちょっと肩に力が入っている感じがしますが、今読み返してみてもその頃の空気が蘇ります。それまで電力会社任せであった電気を、自分たち市民が協力して自然エネルギーで作り出すことができると「おひさまプロジェクト」はこうして始まりました。2001 年 3 月には法然院森のセンターに 1 号機が完成。発電規模は 3.96kW、シリコン系の太陽光パネルで、総事業費は 390 万円でした。発電規模の割には総事業費が多く、現在と比べて高価な設備だったと言えます。

そして今、活動は 25 年目を迎え、現在 27 のプロジェクトが完成しています。総発電規模は、約 233kW、事業費の合計は約 1 億 7,707 万円、寄せられた寄付金の総額は約 2,336 万円となりました。寄付件数は 3,435 件と記録されていますので、実数はともかく延べ 3,435 人の方々が自然エネルギーを増やしたいという思いを持って、寄付をしてくださったということでしょう。

私たちは、おひさまプロジェクトを広げることで、単に自然エネルギーが増えることだけを目指してきたわけではありません。「環境学習」と称して、おもに保育施設での働きかけを続けてきました。保育施設の日常で環境への配慮が当たり前となれば、幼稚園や保育園に通う子どもたちは、たとえば電気や水を大切にすると、どんな行動なのか身に付けていくでしょう。「三つ子の魂百まで」の言葉通り、自然エネルギーを使うことに何の違和感も持たない大人が増えれば、温暖化対策の内容も変わってくるはずですが、しかしながら、2000 年頃の気候と、今年の気候は激変しています。猛暑の毎日はエアコンなしでは、命が危険といっても過言ではありません。正直「間に合うかなあ」という心の底の声、聞こえてきてしまいます。それにしても、気候変動は日々の暮らしの根底に横たわった喫緊の課題であるにもかかわらず、多くの人の関心は単に「暑いね・・・」「雨がすごかった・・・」だけで終わっていて、「なぜこうなっているのか」「どうすればいいのか」まで及んでいません。「気候変動が止められなくなる『臨界点』まであとわずか・・・」と書かれたチラシが配られてきました。「あるレベルを超えると、元に戻すのが難しい大規模な変化が生じる可能性がある」とか。昨年と今年 2 年連続の観測史上最も暑い夏を経験している今、へこたれずに省エネと自然エネルギー拡大を進めていくしかない・・・のではないのでしょうか。未来はもとより「今」のために。

きょうとグリーンファンドは、あきらめずに自然エネルギーを広げていきます。現在、陵ヶ岡児童館に設置予定ですが、設置施設についてお心当たりの方は、是非ご連絡ください。



安朱保育園
地球にやさしいおひさまプロジェクト



むそう幼稚園おひさまプロジェクト



あけぼのソーラープロジェクト

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

コメ不足が話題になることが増えました。価格が上がって困っている方もあると思います。ニュースでは農家さんの高齢化と担い手不足、異常気象や高温によるコメの不作といった話も最近よく聞くし、世界でも食料自給率が最低レベルの日本、さてこの先どうなることやら…。

もしできるんやったら自分でも米づくりしてみたいけど、ほんまにそんなんでできるやろか？という方も、あるのではないのでしょうか。

自分は米づくりを始めて今年で 15 年目となりました。と言っても、自分は農業者ではなく、実家が農地を持っているわけでもありません。食料やエネルギーなど、生活に必要なものはなるべく自給し、自立して生きる力を身につけていきたいという思いから、その一つとして始めたのが米づくりでした。

米づくりグループの仲間に入れてもらい、初めてその田んぼを見学に行ったのは 2011 年 3 月 12 日。たまたまですが、東日本大震災の翌日でした。流れてくる原発事故の様子を目の当たりにしながら、自給的暮らしを目指したい気持ちがさらに高まったことを覚えています。以来、休日には定期的に田んぼで体を動かすという生活を続けています。

自分が学んでいる米づくりは、「自然農」という農法のもので、自然農は、いわゆる「自然栽培」と言われる農法の一つと言えます。川口由一（かわぐちよしかず）さんが提唱された農法で、農薬や肥料、機械を使わず、
・草や虫を敵としない
・何も持ち込まず、持ち出さない
・耕さない
ことなどを原則としています。作物には農地における草や虫、小さな生き物たちも含めた命の営みの中で、その場の自然に沿って育ってもらい、人間は必要に応じてその手助けをしながら実りの恵みを分けいただく。これが基本的な姿勢です。

作業は手作業で行い、機械を使わないので、化石燃料は必要としません。化学肥料や農薬などの資材も投入しないので、それらが製造・流通・使用される過程での環境負荷もありませんし、もしも輸入がストップしても生産できなくなるということがありません。費用面について言えば、機械費など不要ですし、生産資材の価格高騰とは縁がなくランニングコストはほぼ人件費のみです。手作業の労力こそ必要ですが、投入する資源は基本的に種のみだけ。少しの道具のほかには田んぼと水とお日様があれば続けていける、持続可能な農法と言えます。

農業者の高齢化・担い手不足と耕作放棄地の増加が進む中、国では農地の集約化と企業参入、スマート農業の推進等による農業の効率化と生産性向上を目指していますが、特に中山間地ではその路線で維持できる農地には限りがあります。そもそも農業者の絶対数がどんどん減る中、それだけで日本の農業・農地を維持していけるとは思えません。小規模農業や自給農などにも重要な役割があると思います。

農村地域では、「もう体も動かんし、草を管理してもらえただけで助かるから地代なんかいらん」と言って農地を貸してくれる地主さんが少なからずあります。我が家が使わせてもらっている田畑も、まさにそうです。地域の人とのつながりさえ持てれば、使える農地を見つけることはそう難しくないと思います。

あとは、年間で十数日の作業日が確保できれば、お米づくりは始められます。何より、自分で育てたお米のおいしいこと。その分、うっかり食べ過ぎてしまうこともあります。

こう聞くと、なんだか始められそうな気がしてきませんか？でも、どう始めたらいいの？と思われた方、近くで「自然農」に取り組んでいる方がないか、WEB や SNS で探してみてください。自然農に取り組んでいる方であれば、見学や、これから始めてみたいという相談にもきっと対応してくれると思います。また、三重県の「赤目自然農塾」では、自然農の学びの場が毎月開かれています。

たとえばこうした農法による作物での「自産自消」は、フードマイレージの削減という気候変動対策となるほか、世界的な政情不安や気候変動、価格高騰などによる食料リスクを減らせるというメリットもあります。また、自分自身のリスク回避や安全保障となるだけではなく、多くの人が取り組むことで、地域や社会にとっての食料安全保障を高めることにもつながります。そうした人がもっと増えていけば、関連する社会問題も少しは良い方向に向かうような気がしています。



ぐりふぁん設立の根底にあるのは「若狭の原発を案ずる京都府民」の反原発の思いであったと私は思っています。政府が腰を上げない以上、市民ができることから取り組んでいくしかない。先進例にならい私たちもできることから始めてみよう。そうして動き出したのが「ぐりふぁん」でした。

当時すでにドイツなどでは FIT 法が導入され、再エネ拡大と脱原発に向けた方向性がはっきりと示されていました。一方日本では再エネはコストが高く、供給が不安定であるため基幹電源にはなり得ず、原発は低コストな上安定した電源であり、事故の可能性は反対派の妄想に過ぎないと宣伝されていたのです。

25 年を経た現在、私たちは原発のリスクの大きさを目の当たりにしました。しかし、原子力ムラのゾンビたちは今もその失敗を認めていません。一方でコストに関しては、いまや資源エネルギー庁ですら太陽光のコストがほどなく原発を下回るであろうことを認めざるを得ない状況になりました。再エネをめぐる市場はどんどん拡大していています。

唐突ですが、私は本業であるフリースクール運動の分野でも時流がもたらす変化とその難しさを感じています。30 年前、登校拒否は地域から白眼視され、孤立した者たちがひっそりとつながり合って手づくりで学びの場をつくってきました。今や不登校はすっかり認知され、大手塾産業などが参入し不登校をめぐる巨大な市場が形成されつつあります。

抽象的な表現になってしましますが、市場には多様な人が出入りするため、時に競合し、時に協調しつつ、私たちは足もとを見失うことなく志にそって歩みを進めていかなければなりません。そのことは、言うは易きものの行うのはなかなか難しいものであるように思われます。25 周年にあたって、私は原点にある「若狭の原発を案じる府民」の当時のあの思いを改めて心に刻みたいと思っています。

2025 年 総会報告

2025 年総会は、久しぶりの会場となった京エコロジーセンターで、オンライン参加も OK の形で開かれました。正会員総数 36 名のうち、出席 17 名、Zoom 2 名、委任状 4 名、表決書 5 名、計 28 名で、各議案とも滞りなく承認されました。

2024 年度のおひさま発電所設置事業は、保育施設 2 カ所で完成し、単年度としては満足のいくものでしたが、2022 年度、2023 年度はゼロでしたので、押しなべて順調とは言い難く、パートナーとの出会いについては最大の課題であり続けています。

実質 2 年余り設置事業が進まなかったことや、会員数が減少していったことなどで、昨年度は、財政的に非常に厳しい状況となりましたが、2024 年度に大きな額の遺贈があり、資金的な危機は脱しました。

環境学習は、コロナの影響から脱した感があり、取り組まれる保育施設は、2023 年度よりは順調に実施されました。反響の大きかった太陽光パネルのリサイクル工場見学会は、年度が替わった 4 月に実施、参加者に対する手ごたえは確かなものと思えました。

設置施設との出会いは、大いに困難が予想されますが、猛暑の毎日を実感する今、再エネを市民参加で広げる私たちの活動は、参加する人、担う人を巻き込みながら、粘り強く進めなければ、とあらためて思いました。



(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

太陽光パネルリサイクル工場を見学してきました！！

NPO法人リアルにブルーアースおおさか 武田 智津枝

このほど市民共同発電所を設置運営している NPO「リアルにブルーアースおおさか」の武田と申します。

「パネルが廃棄されたら環境破壊になる」と、言われることがよくあり、パネルの廃棄・リサイクルの現状を知りたいと、かねてより思っていました。

今回、きょうとグリーンファンドさんの企画により、望みをかなえる事ができ、感謝しています。

今、日本では、太陽光パネルのリサイクルは義務付けされていません。廃棄物処理法に基づいて処理されており、大半は埋め立てられているのが現状で、大量廃棄されると大問題です。

今回訪れた近畿電電輸送株式会社は、「埋め立てに回さず、できるだけリサイクルする」という思いで、新事業として取り組みを始めたそうで、「自然エネルギーが伸びていく為にはパネルのリサイクルが進まないといけない」という担当者さんの熱い気持ちが伝わってくる見学会でした。

太陽光パネルを解体すると、ジャンクションボックス・アルミ枠・バックシートからは、それぞれ銅・アルミ・銀を取り出すことができ資源化できます。銀は高く売れるとか・・・

しかし、重量の 60%を占めるガラスは、気泡を消す為アンチモンという有害物質が使われており、アンチモンを無毒化しないと資源として活用できません。



国際特許申請中の鳥取再資源化研究所が開発した「アンチモンなどの有害物質を含む太陽光パネルガラスの無毒化リサイクル技術」を使い、近畿電電でも、廃棄ガラスから発泡ガラスを作っています。

ただ、発泡ガラスを製品化しても、売れて利用されなければリサイクルは進みません。水質浄化、防草対策、土壤改良、脱臭剤などとして消費者に受け入れられる商品開発や、販路開拓の為

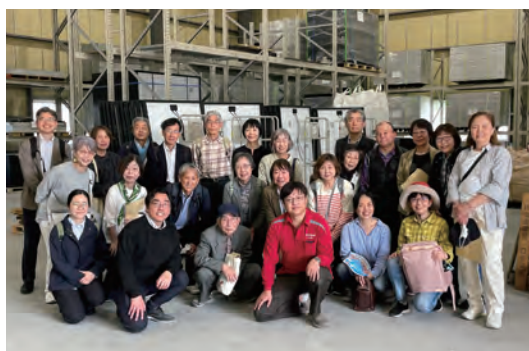
営業にも取り組んでおられることがわかりました。

リサイクル事業者も玉石混交。安易に埋め立てる会社もある中、担当者さん達の誇りを感じました。優良なリサイクル事業者を育てる為には、①ルール（法律など）②仕組み ③監視が必要だと伺いました。「資源として再利用できるものは再利用する」それが、循環型社会を作っていくうえで重要です。ヨーロッパでは、メーカーによる回収やリサイクルが義務化されているそうです。日本でも法制化にむけての動きがあるようですが、法制化で製造者責任を明確に定める事で、パネルを作るメーカーが、リサイクルしやすい素材や形状を考えて製造する事につながり、リサイクル率もあがると思います。

今は、作って終わりじゃなく、廃棄、リサイクルまで考える事が求められていますよね。『製造者責任』や『設置者責任』が曖昧な最たるものは、ウーン、原発？か？

事故の処理もまだ、核の最終処分の方法も場所もまだ何も決まっていませんからね。

原発の製造者責任や設置者責任が曖昧なままの仕組みを作っているのは誰？政治家？その政治家を作るのは我々有権者か・・・結局、ポンコツ政治家を生まないのが、私たち有権者の製造者責任かもしれませんね。



センスオブワンダー

自然観察会講師 板倉 豊（元きょうとグリーンファンド理事長）

最近自然観察会を行った某保育園の先生からこんなお礼のメールをいただきましたのでご紹介します。
「今回改めて、小さな自然のひとつひとつに目を向けてみることでたくさんの発見がありました。鹿などの動物が降りてくる獣道があったり、木の実を食べた後があったり、蜘蛛の巣ひとつをとっても、糸にかかった虫が体液だけ吸われて体が残っている様子を見ることができたり、普段は見過ごしてしまっていることに目を向けられる良いきっかけになりました。川にはたくさんの鳥がいて、カワセミが魚を取る様子や、鶺鴒が羽を乾かす様子なども観察でき、身近にこんなに素晴らしい自然があることに感動しました。子どもたちはお家に帰ってからたくさんお話ししたようで、保護者の方からは『普段、幼稚園の様子をぜんぜん喋ってくれない子なのに、この日は一晩中話し続け、気になったことを図鑑やネットで一緒に調べ、土日には散歩をしながら板倉先生に教わったことを目を輝かせながら話してくれました！』」

自然観察会を企画した者にとってこんな嬉しいことはありません！引用が少し長くなりますが大事なので引用します。

かの有名な生態学者のレイチェル・カーソンは著書の「センスオブワンダー」の中で「もし、あなた自身は自然への知識をほんの少ししか持っていないと感じていたとしても、親として、たくさんのことを子供にしてやることができます。『自分の子どもに自然のことを教えるなんて、どうしたらできるでしょう。わたしは、そこにいる鳥の名前すら知らないのに！』と嘆きの声を上げるのですが、でも『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではないと固く信じています。子供達が出会う事実の一つ一つが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒や豊かな感受性は、この種子を育む肥沃な土壌です。幼い子供時代は、この土壌を耕すときです。」

〔参考文献〕 「たのしい保育園」 滝口悠生：保育園でこんなに哲学的！

「センス・オブ・何だあ？ー感じて育つー！」 三宮麻由子さんが書いた超面白い本が出版されました。

環境腹話術を見学して

大阪大学大学院人文学研究科博士後期課程 梅沢 泰成

5/29、きょうとグリーンファンドさまにお誘いいただき、大宮保育園において環境腹話術を拝見しました。
私にとって「環境腹話術」は耳慣れない言葉です。私はどのような催しか想像がつかないまま保育園に伺いました。しかし、実際に環境腹話術を拝見し、非常に興味深い取り組みだと感じました。

特に、環境腹話術は保育園児の発達段階や生活環境に合わせて作られていることに感銘を受けました。ストーリーやキャラクターは、園児（それから大人も！）の興味を惹き続けるように周到に設定されていました。おサルさんや同じ年ごろの男の子、ぐりわんとぐりにゃんといった親しみやすいキャラクターが入れ替わり立ち替わり登場し、まるで演劇のような舞台でした。内容についても、「歯を磨いている間にお水を出しっぱなしにしない」などの、園児の生活環境に合わせたメッセージが散りばめられていました。全体として、環境腹話術というコミュニケーションが、保育園児の興味や生活に深く適合する形で構成されていることを理解しました。

こうした環境腹話術の技術は、気候変動について大人に発信するときにも参考になるのではないかと思います。昨今、気候変動については正しい情報を発信することに主眼が置かれる傾向があるように感じます。情報の正しさに加え、受け手となる人びとがどのような興味を持ち、どのような生活環境を送っているのかという視点からコミュニケーションを考えてみると、より効果的で面白いコミュニケーションの姿が浮かび上がってくるのではないかと。環境腹話術の経験から、そのようなことを考えました。



※梅沢さんは、修士論文「エネルギー転換への市民参加の現状と課題」作成にあたり、きょうとグリーンファンドにインタビューにいられました。



2025 年度の環境学習も順調にスタートしました。

おひさま発電所になったばかりの園もさっそく申し込んでくださり、環境腹話術では、驚きの連続で、楽しんでくださいました。「地球にやさしいこと」とはどんなことかも、しっかり子どもたちは、学んでくれたようです。腹話術を見た後、手を洗う時に、自発的に水を止めて洗っていたと先生が振り返って



くださり、腹話術で聞いたことをこれからの保育に活かします…と言ってくださいました。

子どもたちが、腹話術を見たことを家に帰ってお話できるように小冊子を作りました。

ぐりにゃんとぐりわんの紙芝居の絵を使っていて、きょうとグリーンファンドとの関りも知ってもらうことも出来ます。ちゃんと、お家の人にお話してくれたかな…？

(きょうとグリーンファンド 深川 佳子)

会 員 ペ ー ジ

・・・山田 晴美

知らなかった。伊江島の闘いを。沖縄本島から 5 kmのところにある伊江島には敗戦直後に米軍が進駐して島民の土地を強奪し飛行場を建設するなど横暴を極め、島民が土地を返せと立ち上がった。その中心人物が沖縄のガンジーと言われる阿波根昌鴻（あはごんしょうこう）さんという方で、非暴力で土地の返還運動を進め、とられた土地の半分ぐらいい取り返した。今でも 35%は米軍が占拠しているが、闘いの記録を残し、後世に伝えるために阿波根さんは自費で反戦平和資料館を作った。

知らなかった。PFAS（ピーファス）という物質が水を汚染していることを。2018 年にはアメリカで警鐘を鳴らす報告があって、2000 年ごろから規制する動きがあったらしいが、日本で注目され、水質基準を言い始めたのはつい最近。PFAS は 1940 年代頃から普及していった化学物質で、撥水剤、表面処理剤、乳化剤、消火剤、コーティング剤等に幅広く用いられてきているというから、日本のあらゆる場所の水が汚染されている可能性がある。

知らなかった。マルセ太郎さんという芸人がいて、がんで闘病中に知的障害者のグループホームを題材にした脚本を書き、差別がいかなるものかを訴えていたことを。自身が在日 2 世で在日の世界も脚本にしている。どれも喜劇にしているのがすごい。マルセ太郎にほれ込んだ人々が「マルセ中毒の会」と名乗って活動しているらしい。

これ以外にも、この一年で得た新たな知識はたくさんある。知らないでは済まされないようなこともあって、残り少ない人生で何ができるか考えてしまう。自分からアクションを起こすことはもはや無理。せめて知ったこと、知っていることを周りに伝えていこうと思う。まずは、この酷暑に対する解決策は再生可能エネルギーしかないことからかな。

編集後記

- ・昨年の夏、今年の夏、その暑さは激変しています。ひょっとして、臨界点はすでに超えた？なのに、「気候変動」は人々の意識からは、外されているのが怖いです。(K.O)
- ・なにかとお米が話題になっていますが、うちは息子が作ったお米を送ってくれるので、なんの心配もなく過ごせています。今年のお米も豊作でありますように！(Y.F)
- ・地域の取り組みでベンチを設置しているが、この暑さでは休憩することもできません。日陰を作る工夫が必要になってきました。(T.Y)
- ・乾電池はなるべく充電タイプを使用。単3電池を単2や単1にするケースを用意していますが、器具によっては、使い捨てを使う箇所もあり、廃棄が必要になります。最近、下京の消防署が使用済みの乾電池、充電式電池、小型家電回収場所になり便利になりました。(Y.M)
- ・参議院選挙で減税ばかりが争点となり、気候危機は全く議論されなかった。中には再エネの拡大に反対する党もあった。破滅するまで成長主義でいくのだろうか。(T.H)
- ・今年の夏は明らかに去年と違う…無事、この夏を乗り越えられるのか？不安になります。適応策のほうに目がいき、根本的な温暖化対策がおざなりになりそう…(S.K)

ぐりふぁん日誌

- | | |
|--|--|
| 4/1 認定特定非営利活動法人として認定を更新される
(京都市) | 5/27 コングラント株式会社「スマート寄付アプリGOJO」
寄付プロジェクト開始 |
| 4/16 上鳥羽北部いきセン・エコまちくらぶ「児童館エコ
アクション」参加／中唐戸児童館 | 5/29 環境腹話術／大宮保育園 |
| 4/18 太陽光パネルリサイクル工場見学会開催
／近畿電電輸送株式会社 | 5/31 職員研修「自然観察会」
／認定こども園みよりんえん |
| 4/22 第153回理事会 | 6/1 2025年 総会／京エコロジーセンター |
| 5/2 2024年度 監査
下鴨幼稚園おひさまプロジェクト打合せ
／下鴨幼稚園 | 6/16 自然観察会(吉祥院こども園)／吉祥院天満宮
上鳥羽北部いきセン・エコまちくらぶ「児童館エコアク
ション」参加／中唐戸児童館 |
| 5/12 自然エネルギー学校・京都2025検討会議／オンライン
京都府令和7年度補助事業等に係る公募説明会
／オンライン | 6/18 環境腹話術／吉祥院こども園 |
| 5/14 認定こども園藍咲学園学園訪問 | 6/24 自然エネルギー学校・京都2025検討会議／オンライン |
| 5/16 太陽光発電設置適性診断調査実施／藍咲学園 | 6/30 環境腹話術／陵ヶ岡こども園 |
| 5/26 上鳥羽北部いきセン・エコまちくらぶミーティング
／上鳥羽北部いきセン | 7/3 太陽光発電設置適性診断調査実施／陵ヶ岡児童館 |
| | 7/5 第1回自然エネルギー学校・京都2025
／京エコロジーセンター |
| | 7/6 上鳥羽北部いきセン・エコまちくらぶミーティング
／上鳥羽北部いきセン |
| | 7/16 陵ヶ岡児童館訪問 |

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によってささえられています。おひさま基金へのご支援をお願いします。

◆ゆうちょ銀行

ゆうちょ銀行振替口座番号：00930-6-157817 加入者名：きょうとグリーンファンド

◆オンライン寄付サイト Give One クレジットカードによる寄付ができます。

「わたしのまちに太陽光発電～寄付で自然エネルギー」



◆ソフトバンクつながる募金



携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるだけでなく、ソフトバンクユーザー以外の方でもクレジットカードによる寄付ができます。



★詳細はきょうとグリーンファンド HP「入会・寄付のご案内」をご覧ください。 <https://www.kyoto-gf.org/donate/donate.html>

★2025年4月1日付で京都市から認定NPO法人として認定されました。認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数

正 会 員 35 賛助会員 30

法人会員 6 2025/7 現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206

TEL/FAX ; 075-352-9150

E-mail ; info@kyoto-gf.org

URL ; <https://www.kyoto-gf.org>

(火～金 13:00～16:00)

